

1-12					
主題		居宅ケアマネジャーが行う、8050 問題への取り組みと対応について			
副題		事業所が担当する事例の実態把握と対応からの一考察			
キーワード 1	高齢の親	キーワード 2	無職の子	研究(実践)期間	7 か月

法人名・事業所名	(株)ナイスケア推進事業部、ナイスケア世田谷介護センター
発表者(職種)	水下明美(ケアマネジャー)
共同研究(実践)者	なし

電 話	03-6425-2541	F A X	03-6425-2523
-----	--------------	-------	--------------

事業所紹介	世田谷区にある、居宅支援(ケアマネジャー)事業所です。ケアマネジャーの仕事の中核的は、ケアプラン作成です。利用者との介護保険サービスをつなぐ大切な役割を持ち、その人に必要なサービスが吟味され、何の目的で、いつ何のサービスを利用するのが記載されています。ただサービスを組み合わせるだけでなく、利用者と地域を繋げる役割も担っています。
-------	---

### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

居宅のケアマネジャーの主な仕事は、①要介護(支援)の利用者・家族の介護相談、②ケアプランの作成、③要介護認定の書類作成代行等があるが、利用者のアセスメントをする中で、背景となる家族の情報についても知り得る状況にある。ケアマネジャーは、担当する利用者に対してケアプランを作り、確認を業務とするが、時には利用者の自立支援を遂行する為、家族の問題についても向き合う現状がある。家族の問題については、老老介護、認認介護、老障介護に始まり、虐待などの問題が多く取り上げられているが、最近では、働ける年代の子供が就労せず、親の収入によって生活している事象が多々存在し、見聞きが増えてきた。ケアマネジャーは、家族の問題に関して、必ずしも対応・介入等を行わなければならないというものではないが、事例検討会等に参加すると、利用者のケアの為に、家族の問題にも関わらざるを得ない＝役割を担わざるを得ない状況が増えていることに直面している。しかしながら、大変な事態になっていると話題に出るものの、退職した親の収入に頼って生活をしている子の問題について、報告はあるものの実態数が分からずにいた。

### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

親の収入に頼って生活をしている子の問題について、地域の中で、実際に世帯に存在する数等、利用者と密接にかかわってきたケアマネジャーから実際の情報を得ることにより、まずは実態把握を行いたいと考えた。数字が分かることで、地域の世帯の変化や高齢化率とも比較することが可能となり、実態の把握、対策、不足する社会資源、今から考え行っておくべき対応等が分かってくると考えた。仮説としては、どのケアマネジャーも 1~2 件は担当しているだろうと予想した。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

1. 対象：自社のケアマネジャー 20 名全員を対象とし、担当する利用者の世帯に「8050 問題」を定義し、対象となる事例があるかどうか、実数や理由を調べる。
2. 調査方法：調査票を用い、ケアマネジャーが担当する利用者について回答する。  
※ 今回の「8050 問題」の定義として、「高齢の親(65 歳以上)の収入(年金等)に頼って生活をしている未就職の子(30 代~)がいる世帯」とした。  
理由は、介護保険の対象者が、基本 65 歳以上の高齢者のためである。
3. 調査期間：調査表の回答期間は、介護支援専門員部会で検討し、倫理審査、プレ調査を経た後、平成 29 年 11 月 13 日~12 月 28 日までとする。対象利用者の選定については、平成

29年10月末時点での担当者について、回答することとする。

4. 調査項目：「生活している地域」、「担当する利用者世帯の中に、対象者(子)がいるかどうか」、「いる場合、就労していない理由」、「子に対して、ケアマネジャーが連携・連絡した 機関」、「将来、親が逝去した時、その子が生活に困窮するか否か、その見立て理由」
5. 分析方法：単純集計と、因子分析を中心に行った。

#### 《4. 取り組みの結果》

- ① 対象ケアマネジャー20名の100%の回答を得られた。  
利用者 609人中対象となった世帯は31件であった。地域別に見ると、A地域の発生率9.5%、B地域の発生率2.6%、C地域の発生率6.7%、D地域の発生率1.0%であり、地域差があった。また、ケアマネジャーが担当する事例にも偏りがあった。

	対象者	担当件数	割合	地区高齢化率
A区	13	142	9.5%	21.7%
B区	1	159	2.6%	25.1%
C区	11	132	6.7%	20.2%
D市	1	90	1.0%	29.9%

- ② 就労していない理由、引きこもりの理由については、精神疾患、うつ病、難病、リストラ、介護離職等、多岐に渡っていた。
- ③ 連携している場合、連携先については、地域包括支援センター、主治医、行政の地域担当、生活支援課（生活保護）、障害支援課、民生委員等、フォーマル、インフォーマルにかかわらず、必要なところに連絡を取っていた。但し、実際に取り組みまで行ったかどうか、その後についての追跡は、ケアマネジャーの仕事の範囲外にある為、なかなか把握ができないという現状もあった。

#### 《5. 考察、まとめ》

要介護高齢者の生活を支える自立支援・生きがい支援は、ケアマネジャーが行うケアマネジメントが欠かせない。独居であっても同居であっても、どんな方でも、家族が背景にあることを心に留めることは欠かせない。

しかしながらケアマネジャーは、介護保険認定者の担当という限界がある。高齢の親が亡くなった後の子の問題については、発見をして必要な機関に連絡をしても、それが上手く繋がったのか、経過や結果について知る由がない。今回の調査により、地域差があり、緊急性の違いも伺えた。更に、関係機関と継続して関れるようなしくみの検討や、連携強化、予防対応についての仕組みについても必要なのではないかと思った。

#### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたっては、N株式会社 介護支援専門員部会の倫理審査検討会にて、以下の点を口頭にて説明・確認を行い、検討会での回答を持って、同意を得た。

- ① 対象とする目的以外では使用しないこと。
- ② 利用者、地域、ケアマネジャーが特定できない事、利益を被ることはない事。

#### 《7. 参考文献》

- ・「平成28年度 厚生労働白書—人口高齢化を乗り越える社会モデルを考える—」
- ・2016年5月1日、NHK福祉関連番組「バリバラ」中取り上げられた「8050問題」
- ・2016年4月23日、「テレ朝ニュース」で取り上げられた「所沢市の取みについて」
- ・2018年「超高齢社会における障害者と家族」-「8050」「老障介護」で孤立する家族を地域でどう支えるか- 東京都自立支援協議会セミナー資料

#### 《8. 提案と発信》

この調査の限界として、また、各地域での高齢化率に対して、ここで取り上げた「8050問題（親の年金に頼って生活する未就労の子）」の問題の発生率については、同じ研究がない為、比較できる対象が無い事が挙げられる。今回の調査では、まだ急務を要する数値ではないと感じたが、今後の高齢化と共に、問題が顕在化する事が懸念された。それには、これからも調査を継続し、ケアマネジャーとして出来る事、すなわち、「発見だけではなく、関係機関との速やかな連携」を行って行くことが地道な対応だと考えた。

また、関係機関には、一緒に行動していく事や、早急に問題への取り組みが出来る体制を整えて欲しいと希望する。